



平成31年1月15日

当別町長 宮司正毅 様

当別町教育委員会教育長 本庄幸賢 様

NPO 法人ゆめの種子トープ理事長 堀江三千代

当別町の平成31年度予算編成に係る要望について

日頃から、当法人の活動にご理解ご協力を賜り、心から感謝申し上げます。

さてさっそくですが、標記のことについて下記のとおり要望しますので、ご多用とは存じますが、平成31年2月15日までにご回答くださるようお願いいたします。

記

#### 1. 町史編さんについて

(1) 平成30年第3回定例会で、「当別町史編さん委員会条例」が可決、制定されました。私たちは、町長に提出した平成28年11月11日付け要望書で、「研究者を主体とした「町史編さん委員会」を設置」することを求めてきていますが、先の定例会の議論では町理事者側から、委員に就任については、当別町内で歴史に詳しい人を要請したい、と発言するなど極めて内向きです。

研究者を中心とした委員で構成される委員会の設置を、再度強く要望します。

(2) また、上記の要望書では、「専門職を配置し、早急な資料の収集などを町民と連携」し進めることを要望しましたが、それに対して何の動きも感じられません。資料収集に当たり、具体的な取り組み方針・内容を明らかにすることを要望します。

#### 2. 町立図書館設置について

町長はことあるごとに、図書館は「町として、当別町に必要な施設として認識している」と発言していますが、現時点でその実現性はゼロに近い状況といえます。当別町の定住人口を増やしていくことが喫緊の課題であると考えれば、文化的なインフラ整備なしにそういったことは実現できないことは自明です。公共の図書館はその筆頭であると考えます。

現況の中でまずは「図書館設置条例」を制定し、近い将来、公共図書館を作るという町長の意気込みを示すことも必要です。条例の制定と常勤職員としての専門職の配置を切に要望します。

また、当別町及び北海道関連の一次資料や図書などの文献資料は日々失われていっている状況にあることを私たちが提出した先の要望書で指摘しました。当別の歴史を正しく証明する資料として、情報のみならず現物資料の収集に早急に着手するよう、再度要望します。

#### 3. 旧郷土館資料の位置づけと図書館について

先の平成30年第3回定例会で、町長は、当別150年事業として伊達記念館リニューアルを含め当別の歴史を継承していく取り組みをしたい、と発言しています。

私たちは、平成28年11月11日付け提出した要望書で、庶民の暮らしの歴史を紹介した「旧当別町開拓郷土館」の収蔵資料を活かし、開拓郷土館に代わる常設の「博物館・資料館」を要望しましたが、町は「町の厳しい財政状況のため」具体的な計画はないと一蹴しました。

この「当別150年」という機会に、伊達記念館の資料と旧郷土館の資料とを活用した新たな郷土館を、図書館との「複合施設」として新設するよう要望します。

#### 4. 現図書館について

町内の2箇所の図書館について、「西コミセン図書館」では限られたスペースの中に机イスを配置し、無理に自習スペースを作ることによって来室者の動線を妨げ、図書配架を狭めています。また学習交流センター内の「閲覧室」は現在、資料庫として使用されてしまい閲覧室機能はなくなり、本来の使用目的が果たされていません。

平成27年2月の当別町図書館像検討委員会による「答申書」では、西コミセン図書館では「集う場」がないことから、長時間滞在できるようスペースを確保する必要があると、また、学習交流センター閲覧室は小スペースであるために、「活動の場を提供し、提供を奨励」しているとはいえない、と指摘しています。町は答申を尊重するといいながら、図書館の様相はまったく答申内容とは逆の方向へ進んでいるとしか言いようがない現況です。

西コミセン図書館にあっては、必要なスペースは図書室内ではなく別のスペースに確保するとともに、学習交流センターにあっては閲覧・自習スペースを確保するなど、町民のニーズに応えるよう要望します。

以上